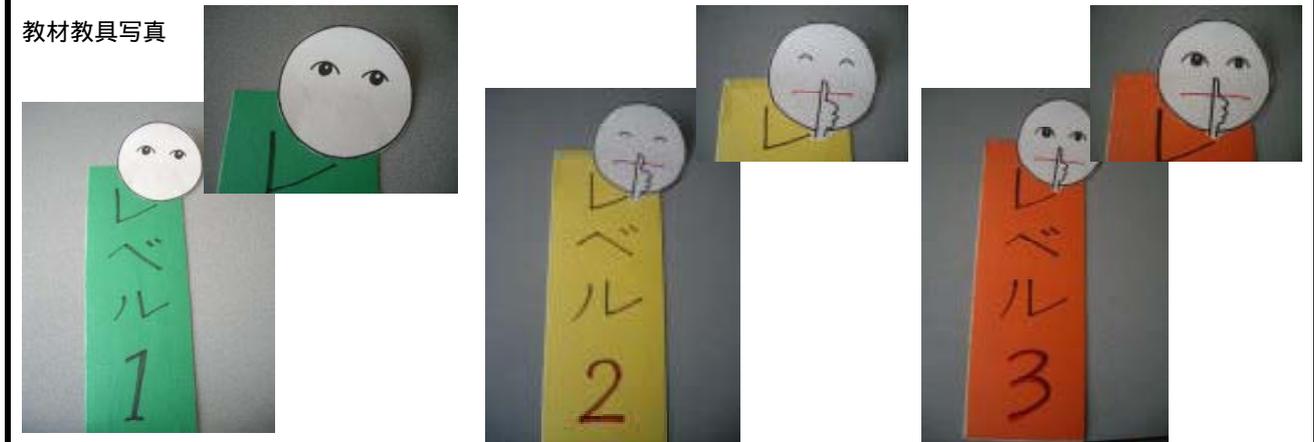


教材教具名 「僕の注目表ルール」	教科（学校生活全般）	情報提供者
------------------	------------	-------



教材教具の概略（ねらいと使い方） 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等

- 1 ねらい
 - 前に立って話す人に注目させる。
 - 自己評価をさせることで、適切な行動を意識づける。

- 2 発達段階、障害特性等
 - 自閉症の生徒を中心に使用。
 - 独り言や鼻歌、よそ見が多く、なかなか相手の話に意識を向けることが難しい生徒。

- 3 使い方
 - レベル1 話している相手の方を向く。（小さい声の鼻歌はOK！）
 - レベル2 口を閉じる（鼻歌を歌わない。相手の顔を見ていなくてもOK！。）
 - レベル3 口を閉じて、話している人の顔を見て聞く。

授業で生徒に話をするとき、注目させるために使用している。

教師が前に立って話をするとき、この札を提示する。

話の途中で「レベル2」「レベル3」へ変化することもあるし、逆に「3」「2」や「1」へ変化することもある。ここ一番、聞いてほしいときに「3」を示すようにしている。

授業中、生徒にずっと緊張したまま注目させることは難しい。

内容によって注目度にメリハリを付け、生徒自身が気持ちをコントロールしていくことができるようになればと思っている。

トークンエコノミーの取組にリンクさせ、「先生の話に注目できたか」ということを生徒に自己評価させている。

児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等（次に利用する方のために）

カードを、あまり頻繁に提示しすぎると効果的でなくなるので、カード提示のバランスと頻度が難しい。（生徒の実態や、その場の状況による。）

カードを提示しなくても、状況を見て生徒自身が「レベル2！」等と言えるようになった。

3段階の指標を明確にしたことで、生徒は自己評価しやすくなった。

